

新たに赴任された小中学校の校長先生より、地域のみなさまへご挨拶



4月より小和田小学校の校長として赴任いたしました大野洋(おおのひろし)です。以前担任から他校を経て、教頭として戻ってきたときにもご挨拶させていただきました。そして5年を経て再び戻ってまいりました。

つくづく小和田にはご縁があるなど感じております。今回も他校で経験したことを生かして小和田の子に合った教育活動を推進していきたいと思っております。

地域の皆様そして保護者の皆様には、学校の教育活動に対して温かく見守っていただき、本当にありがとうございます。子どもたちが安全に地域で過ごせるように見回っていただいたり、校外や課業時間外の子どもの活動に対してサポートしていただいたりと、大応援団を得たチームのような頼もしさを感じております。

3年生社会の学習に「学区探検」という、身近な地域の様子を実際に歩いて自分の目で見て学ぶ学習があります。教科書には東西南北それぞれ特徴のある町が描かれていますが、この小和田も似ています。

北側は赤羽根山があり自然豊か、西側には田んぼも広がっています。南側には大型マンションや商業施設があります。自然と便利が同居する貴重な土地柄であると同時に、交通量が多い一級国道をかかえますが人家のないところもあります。そのような小和田の地を好きになり、小学校中学校と土台を固め、自分の選んだ道に自信をもって羽ばたいていくそんな人材づくりを担えればと考えております。

子どもたちが安全に過ごし、充実した学校生活が過ごせるよう地域や保護者の皆様と手を携えて取り組んでまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

「はじめまして」のご挨拶です。高橋励(たかはしすすむ)と申します。ご縁あって、この4月から赤羽根中学校の校長となりました。着任当初は、坂(山?)の上にそびえ立つ城のような佇まいの校舎に気高さを感じながらも、「毎日この道をのぼって通うのは大変だろうなあ……」と案じていましたが、それを子どもに投げかけてみると「おかげで足腰が鍛えられます」と前向きな受け止めの声が聞かれました。「ものの価値や良し悪し」とは「受け止める側のものとのらえ方」で決まると子どもに教えられた思いです。



学区としては小和田小学校と一小・一中の関係の赤羽根中学校。本校生徒ひとり一人の発揮する力は、小和田小学校の六年間で育まれた確かな土台があつてのもの。そして、その六年間の小学校の取組を、地域の側から伴走してくださっているのが、青少年健全育成推進協議会だと受け止めています。そこに地域の中でのつながりを大切にしてくださる各ご家庭が加わることにより、紡がれた強い系のような子どもの成長を支える力となっていくのだと感じています。

人生100年といわれる今の時代のものさしからみれば、小・中学校での生活はとっかかりに通り過ぎるたった9年間でしかありません。でも、その9年という時間がどれほど大切であるか、通り過ぎてきた全てのオトナはよく知っています。そして、教科の学習だけではなく、体育祭や合唱祭、修学旅行や野外学習、中学生と大人のつどいやふれあい講座のように、校内の仲間や地域の大人とともに取り組み過ごす体験の時間などがとても大切なものであることを、コロナ禍という時間が教えてくれました。

未来を創る子どもたちが、その力を育てていく毎日を支えるために、オトナとして今できることを共に考えながら、力を合わせていきたいと考えています。よろしく願いいたします。